

南アルプス市高齢者いきいきプラン

第8期高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画

令和6年度-令和8年度

資料1

●● 各重点目標に係る評価指標 ●○

重点目標1 生きがいと健康を支える介護予防の総合的な推進

評価指標	R5年度	R6年度		R7年度	取り組みの成果と今後の方針
	見込値	目標	実績	目標値	
介護支援ボランティア・ポイント制度延べ活動件数	700件	700件	974件	760件	ボランティア情報紙等を通じて広く周知を行った結果、新たな登録者・活動件数ともに目標を上回ることができた。今後も活動の場をさらに広げ、高齢者の社会参加を一層推進していく。
訪問型サービスC利用者数 (栄養・口腔・運動)	3人	3人	1人	4人	目標としていた利用者数には達しなかったものの、複合的な課題を抱えるケースに対しては、専門職を複数回派遣することで、多面的な視点から支援の方向性を検討することができた。今後は引き続き利用者の拡大を図るとともに、支援の質の向上に務めていく。
当該年度にサポートリーダー養成講座を受講した者の内、地域で介護予防を実践している者の割合	70%	80%	67%	80%	受講者数は例年と同程度であったが、家族の介護など個人的な事情により、地域活動への参加にはつながらなかった。今後は、受講しやすく、介護予防の実践に資する内容を検討し、引き続き開催を継続していく。
いきいき百歳体操	参加者数	1,086人	1,165人	1,250人	新たに7グループが立ち上がった。今後は、市広報を活用した周知に加え、サロン活動および協議体における取り組みを通じて、参加者の更なる増加を図っていく。
	実施箇所数	70箇所	75箇所	78箇所	

重点目標2 住み慣れた地域で安心して生活できる支援体制の充実

評価指標	R5年度	R6年度		R7年度	取り組みの成果と今後の方針	
	見込値	目標	実績	目標値		
地域包括支援センター職員を対象とした研修会の開催回数	1回	1回	3回	1回	センター内において「防災」「高齢者虐待」「感染症予防」に関する研修会を実施し、職員の基礎知識と対応力の向上を図った。今後、具体的な状況を想定した、実用的な内容の研修会を企画していく。	
ケアマネジャー研修会への参加割合 (参加者数/市内ケアマネジャー数)	65%	65%	66%	70%	事例検討会を2回実施し、障害サービス計画相談員との合同研修を開催した。今後も他機関と合同開催を継続し、関係強化と業務連携を図っていく。	
通所型サービスB(コミュニティカフェ)設置数	4箇所	5箇所	3箇所	6箇所	介護予防サポートリーダー研修時においてコミュニティカフェに関する説明を行っているが、令和6年度に新たに設置された団体はなく、目標を下回る結果となった。今後は、協議体やサロン活動を行っている団体に対し、引き続き制度の周知を図っていく。	
支えあいの地域づくり実感フォーラム	参加者数	161人	200人	155人	200人	参加人数および新規参加者数はいずれも目標を下回ったものの、新規参加者数の割合は前年度を上回った。今後は、市民が関心を持ちやすいテーマの設定に努め、新規参加者の獲得に取り組んでいく。
	うち新規参加者数	51人	64人	59人	68人	
地域支えあい協議体の認知度 ※次期計画において評価	43.3%	—	—	—	評価なし	
地域ケア推進会議開催回数	1回	1回	0回	1回	地域ケア個別会議の開催はあったが、地域ケア推進会議を開催するまでに至らなかった。これまでの課題を報告する機会として、開催に向けて取組んでいく。	
家族介護者相互交流事業・家族介護教室(介護者のつどい)	参加者数	90人	100人	158人	110人	開催回数の増加やリピーターの多さに加え、市による男性介護者のつどいを開催したこともあり、参加者数ならびに男性参加者数は目標を大きく上回った。今後も、介護者間の交流の場が確保されるよう支援を継続していく。
	うち男性参加者	15人	15人	29人	18人	

重点目標3 認知症施策の推進

評価指標	R5年度	R6年度		R7年度	取り組みの成果と今後の方針
	見込値	目標	実績	目標値	
認知症サポーター養成講座受講者数	750人	750人	857人	750人	放課後児童クラブ、自治会、サロン、市民公開講座を開催した。また新たに小学校や高等学校でも実施し、多くの認知症サポーターを養成することができた。今後は企業等に対しても講座開催を働きかけ、認知症に関する正しい理解と見守りの推進に努めていく。
認知症初期集中支援チームの年間対応数(実人数)	11人	14人	10人	17人	年間の対応件数は目標には達していないものの、対応件数が減少したコロナ禍に比し増加傾向にある。令和6年度からチーム員に内科医が加わったことで、多角的な視点からの意見を得られ、支援の方向性を確認できる良い機会となっている。今後も必要な方が適切に本事業を利用できるよう、家族やケアマネジャーなどの支援者に対し、引き続き事業の周知を行っていく。
認知症カフェ設置数	2箇所	3箇所	4箇所	3箇所	令和6年度には、新たに2か所の認知症カフェが開設され、認知症の方やその家族の交流の場が拡充された。今後は、市内4か所の認知症カフェの周知および利用促進に向けた連携を図るとともに、運営に関する支援を行っていく。

重点目標4 高齢者の権利擁護の推進

評価指標	見込み値	R6年度		R7年度	取り組みの成果と今後の方針
	令和5年度	目標	実績	目標値	
権利擁護・虐待対応職種別研修会への参加割合(参加事業所数/総事業所数)	25%	30%	44%	35%	管理者、相談支援従事者、現場従事者を対象に、それぞれ実施した。虐待や不適切な対応を防ぐ予防的視点の共有を図った。今後も基本的なマインドを醸成を目的に、継続的に取り組んでいく。
高齢者の消費者被害防止研修参加者数	0人	100人	257人 (12団体)	120人	研修会の開催はなかったが、認知症支援ネットワーク会議で話題提供を行い、地域包括支援センター広報紙「サポート」へ掲載、市民活動団体へ出前講座を開催し、被害防止に関する情報発信を行った。庁内関係部署と連携しながら、取り組みを継続していく。

○● 自立支援・重度化防止、介護給付費の適正化に係る評価指標 ●○

評価指標	R5年度	R6年度		R7年度	取り組みの成果と今後の方針
	見込値	目標	実績	目標値	
サービス事業所の運営指導件数	25件	21件	19件	27件	各サービス事業所に対し、3年ごとに運営指導を、通知のうえ実施している。指摘事項はみうけられたものの、監査等に該当する重大な案件はなかった。今後も、サービスの適正化の観点から継続的に運営指導を実施していく。
要介護認定の適正化件数	全件	全件	全件 (2,881件)	全件	認定調査から認定審査会に至るまでの一連の手続きについては、適正に実施している。一方で、申請から認定決定までに要する期間が長い点が課題であり、今後の改善が求められる。
ケアプラン点検件数	120件	120件	103件 (住宅改修含めると555件)	130件	通常的面談による個別のプラン点検に加え、運営指導の機会を活用したプラン点検および住宅改修に係る提出プランの点検を実施し、必要に応じて助言及び指導を行った。今後も継続して実施するとともに、介護給付費管理システムを活用し、給付実績とケアプランの整合性を確認しながら、適切な支援に努める。
医療情報との突合・縦覧点検回数	年12回	年12回	年12回	年12回	介護給付の適正化を図るため、毎月の縦覧点検を継続して実施している。今後も引き続き、給付実績の点検を適切に行い、不適切な給付の早期発見・是正に努める。